

1. 麦の生育状況

11月の播種時期に好天が続いたため、播種は順調に行われ、出芽・苗立ちも順調でした。気象庁の3か月予報（2025年11月25日発表）によると、今後（12月～2月）の気温は「高い」確率が40%、降水量は「少ない」確率が50%と予想されています。麦踏みや湿害対策を徹底し、高品質麦の生産を目指しましょう。

2. 麦踏み

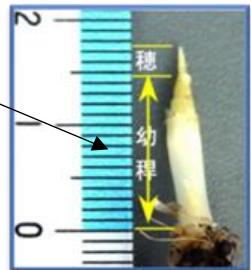
- 3葉目が展開したら、1回目の麦踏みを行いましょう。生育が遅れている場合は無理に踏まず、3葉目が展開したら実施します。
- 圃場が乾燥しているときに実施しましょう。雨や雪によって土壤水分が高いときに麦踏みを行うと、土が締まり湿害による根傷みを起こし、生育不良に繋がります。土を手で握り、湿った状態であれば無理な麦踏みは避け、圃場が乾いてから麦踏みをしましょう。
- 麦踏みの回数は、茎立期直前までに3～4回が目安です。麦踏みの間隔は10日から2週間程度あけるようにします。根張りを良くし、寒さに強い麦を生産するために麦踏みを行いましょう。

麦踏みの効果 ⇒

- ① 分げつを進める
- ② 根張りを良くし、耐寒性をつける
- ③ 霜柱などによる凍上害防止
- ④ 暖冬時、早すぎる茎立ちを抑える
- ⑤ 穂ぞろいを良くする



幼穂が2cm
程度になる
まで踏圧で
きます。



3. 排水対策の徹底

- 排水溝は排水路に繋いでおきます。時々排水溝を点検して、必要に応じて溝さらいを行いましょう。
- 排水対策をすることで圃場が乾きやすくなり、麦踏みを行いやすくなります。排水溝がまだない場合は早急に設置しましょう。

<秋耕をしましょう> 秋耕を早めに行なうことで、以下のような効果があります。

○ 稲わらの腐熟促進

早い時期に稻わら（有機物）をすき込むことで、稻わらの腐熟が促進され、翌年の代かきが容易になります。また、水稻の生育に必要なケイ酸などが土壤に還元され、水田の保水力や肥沃度が向上します。これにより、翌年の水稻の収量や品質の向上が期待できます。すき込む時には、10a当たり10～15kgの石灰窒素を散布し、分解を促しましょう。

○ 水稻病害虫の防除

ヒメトビウンカ、ニカメイガ、スクミリンゴカイ（ジャンボタニシ）の翌年の発生を軽減できます。水稻の再生株（ひこばえ）は、ヒメトビウンカの越冬源及びイネカメムシの栄養源となり得るため、収穫後は速やかに耕起し、再生株をすき込んでください。また、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は耕耘作業をすることで、貝が破碎されやすくなり殺貝効果が高まります。

○ 多年生雑草の防除

難防除性雑草であるオモダカ、クログワイなどは地塊を地表に出現させ、乾燥・凍結させることで、翌年の発生を減らせます。

○ メタンガスの発生抑制

地中にすき込まれた有機物が腐熟すると、二酸化炭素の約25倍の温室効果を持つメタンガスが発生します。秋耕を行うことで、春まで耕起を行わない場合と比較して、メタンガスを少なくとも1割削減でき、環境負荷の低減に寄与します。

農業用ハウスの雪害対策

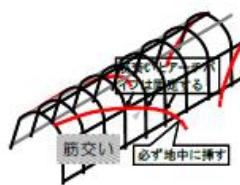
栃木県



平成26年2月の大雪は、県内各地で多くのハウスが倒壊するなど、甚大な被害を及ぼしました。また、年数が経過したハウスは強度が低下しています。雪が降る前に必ずハウスの点検を行い、部材の更新や補強対策に万全を期し、雪害に強い農業経営を実現しましょう。

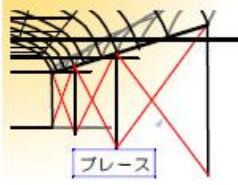
筋交い

妻面の奥行き方向への倒壊防止



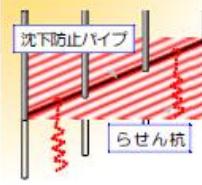
プレース

ハウスの変形防止



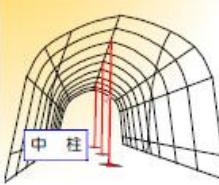
沈下防止とらせん杭

アーチパイプの沈下と引き抜き防止



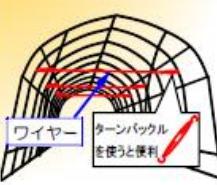
中柱

真上からの負荷による屋根のM字型陥没防止



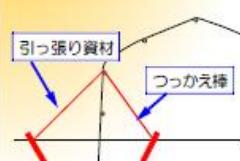
ワイヤーによる補強

アーチパイプの横への広がり防止



肩部の補強

軒の変形防止（主に強風対策）



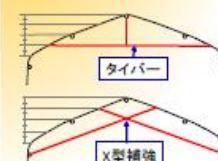
支柱の補強

アーチパイプの地盤が部分的に腐食している場合の補強（本来はパイプ交換が望ましい）



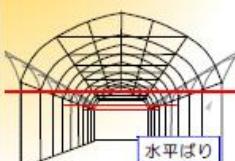
タイバー・X型補強

アーチパイプのM字型陥没防止



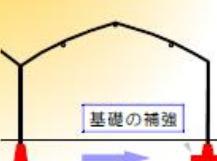
水平ばり

柱と柱をつなぐ水平材。ハウス全体の倒伏防止



基礎の増強

基礎の沈下や浮き上がり防止（外周だけでも効果的）



雪害防止に向けた事前・事後対策

1 2つの防災メールに登録しましょう！

1) とちぎ農業防災メール（農作物の技術対策）

[とちぎ農業防災メール]



QRコードで直接登録できます

2) 栃木県防災メール（各気象情報・注意報・警報等）

[栃木県防災メール]



QRコードで直接登録できます

※ 2つのメールは、携帯電話・パソコンのどちらでも登録可能です。
※ 登録は無料ですが、受信に伴う通信費は登録者様の負担となります。

2 事前対策

日頃の点検・補修

- ハウス各部を点検し、サビ止・補修等を行う
- プレースや筋交い等の緩みを点検する
- 補強用の支柱やワイヤー、予備のフィルムやマイカー線等を準備しておく
- 連棟ハウスの谷からの浸水防止対策を行う
(スプリングの2重留やフィルムの捨て張り)

ハウスの補強

- 中柱、つかえ棒、ワイヤー等で補強する

融雪準備

- 暖房機の燃料残量と正常作動を確認する
- 発電機を準備する
- ハウス周囲に排水路を掘るなど融雪水の排水対策を行う

積雪防止

- 谷樋や排水路のゴミや残雪を除去する(特に雨樋の落とし口部)
- 被覆材表面にある雪の滑落を妨げる突出物を除去する
- 雪の滑落を妨げるネット等をはます
- 外張りフィルムのたるみをなくし破損箇所を修繕する
- 作物を栽培していないハウスの被覆資材を除去する

融雪対策

① 内部被覆を一部または全部開放にする
(暖気や地熱の放射で融雪する)

② サイド被覆の巻き上げは完全に下ろさずスジギリぎりで止める
(完全に下ろすと積雪で開けられなくなる場合がある)

③ 加温機のあるハウスでは必ず降雪前から加温する

④ オーターカーテンは降雪前から散水する

⑤ 連棟ハウスでは、暖房のダクトを谷部分の融雪を促すように配置する
⑥ 温度サーモやタイマーを利用して連続運転する

除雪

① 降雪時は、早めに雪下ろしをする
[特に、多年銀リPOはホコリで雪が滑りにくいので注意する]
(積雪後に雨が降ると雪の重量が増すので注意する)

② ハウス側面の除雪を徹底する

③ ハウスの片側に積雪が偏らないように除雪する

事後対策

- ハウス各部の損傷や緩み等を点検する
- 室温の確保に努め、低温障害を防止する
- 地温の低下を防ぐため、マルチ等の昇温対策をする
- ハウス内の湿害を避けるため、融雪水を排水する
- 降雪後晴れたときには、換気に注意する
- 制御装置の設定と正常作動を確認する

引用・参考文献
平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針
(平26.7 (一社)日本施設園芸協会)

問い合わせ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班
☎ 028-623-2322

